

都市の公開空き地

- 橋詰めづくりが「街づくり」-

芝浦の橋詰めを再生しながら、こどもたち、高齢者たちの遊び場を仕掛けていく提案です。修土設計の主題でもある、こどもたち、高齢者たちの視点を大切にした建築設計は、高校、大学、大学院と続けてきた一連の試みです。



第4回日経アーキテクチャコンペ 優秀賞

はじめに

街は通常、大人の視点からつくられていて、大人が働いたり、住んだりするのに都合の良いようにできています。そのため、こどもたち、高齢者たちにとって、街は「移動するためのもの」であり「愛着がある場」や「遊ぶ場」ではなくなりつつあるように感じられます。そうした状況に対して、これまでの私の建築設計活動においては、こどもたち、高齢者たちが自分たちの居場所を見つけるような環境創造の推進を図ってきました。

研究背景

今日、マンション建設ラッシュに伴い、人口の都心回帰が進んでいる一方、都心居住をめぐる課題も顕在化してきています。その一つとして、既存都市における遊び場の喪失が挙げられます。都心居住地の多くは、オフィス街や商業地域に存在し、大人の街としての姿が色濃く存在しているためです。私は人口の都心回帰における街づくりとして、こどもたち、高齢者たちの遊び場づくりに取り組む必要が出てきていると考えます。

研究目的

そこで、こどもたち、高齢者たちにとっての街、建物の使い方を視野に入れた提案が乏しい現実に対し「こどもたち、高齢者たちの主たる運動場が街中にある都市」を目標とした空間を仕掛けます。



主たる運動場が街中にある都市



>> 天保9年



>> 明治40年



>> 大正11年



>> 昭和16年



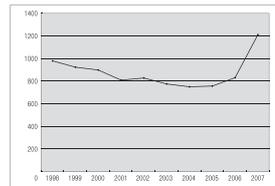
>> 昭和6年



>> 平成18年

歴史的背景から読む現状と課題

現在の芝浦の大部分が江戸時代は海でしたが、関東大震災の焼土瓦礫の処理場として埋め立てられました。その後、工場、事務所、倉庫などがこの地域を構成していましたが、新たに大規模な高層集合住宅ができており、その姿は変わりつつあります。芝浦アイランドをはじめとするマンションの建設が相次ぎ、2000年時点で約8,500人であった人口は2007年5月現在15,800人と大幅に増加しています。今後もさらなる増加が見込まれており、人口の都心回帰における典型的な街といえます。これまで芝浦は開発の繰り返しによって歴史的堆積が乏しく、人々が集う場所も整っていません。そのため特にこどもたち、高齢者たちは居場所となるような遊び場を見つけることができず、まちの隅の方へと追いやられています。



芝浦におけるこども人口表

芝浦におけるこども人口増加

芝浦小学校の児童数は2005年で332人であったのが、2007年6月現在で431人と増加しています。左の表は芝浦一丁目・二丁目・三丁目・四丁目における0~12歳までの人口表です。



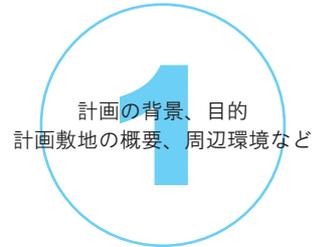
キャピタルマークタワー



芝浦アイランド



パークタワー芝浦ベイワード

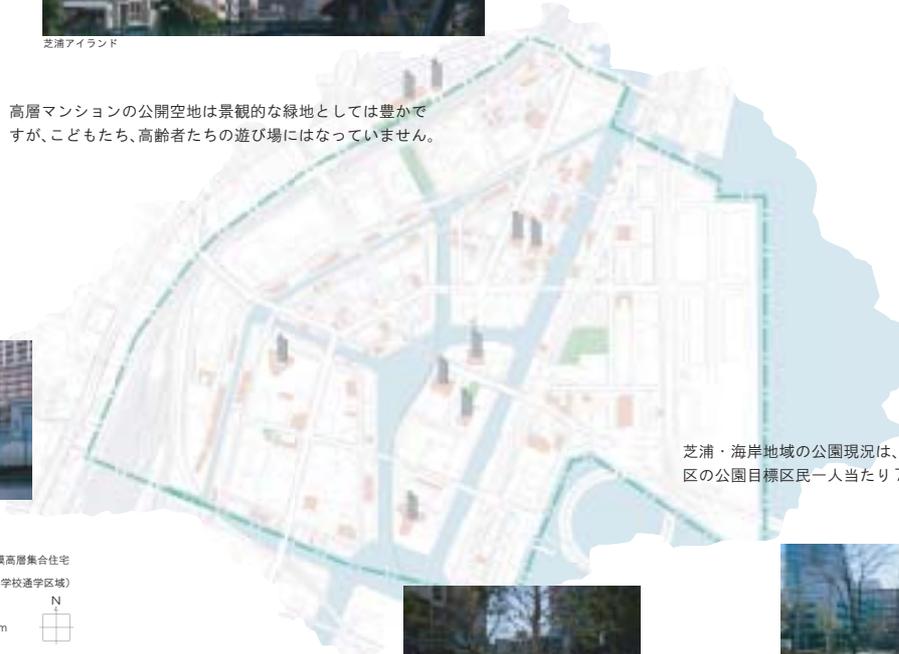


計画の背景、目的
計画敷地の概要、周辺環境など

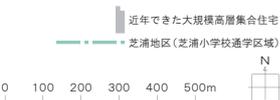


区立芝浦公園

高層マンションの公開空地は景観的な緑地としては豊かですが、こどもたち、高齢者たちの遊び場にはなっていません。



区立南浜町児童遊園



Shibaura Map

芝浦・海岸地域の公園現況は、一人当たり3.7㎡の公園面積で、区の公園目標区民一人当たり7㎡を大幅に下回っています。



プラタナス公園



区立埠頭公園





運河の街、橋の街

芝浦橋詰めネットワーク 橋詰めを巡る街遊び、街歩き!

芝浦は運河の街、橋の街です。何をするにも橋を渡らなければ用足しはできないといっても過言ではありません。そんな芝浦の橋詰めに、街遊び、街歩きを誘発する小さな居場所が作りたいたいと思いました。



遊歩道を散歩することもたち



下校中のこどもたち

芝浦の場所性を活かした街づくり

橋詰めは人々が交錯し、景観上重要で人の目に留まりやすいため、街づくりにおける起爆剤となりうる有効な場所です。芝浦の橋詰めには比較的古い住宅やオフィスが多く存在しているため、これらの建物を再生・解体しながら、こどもたち、高齢者たちの遊び場となる公開空地をつくっていくことは実現性が高いと考えます。区が街の中心部から離れた土地を買収して遠く公園をつくるより、こどもたちの通学路や高齢者たちの散歩道となっていて、様々な交通の結節点でもある橋詰めを開放していく方が、人々の生活に潤いをもたらす空間インフラを身近につくることができます。

橋詰めの果たす役割

橋詰めにある現状のオフィス、倉庫、住宅、駐車場が、新しい制度づくりや既存建物の再生・解体によって、どの橋詰めもこどもたちの遊び場となり、高齢者たちの散歩の休憩場所となり、年齢や立場の違う人々の出会いの場となるように計画します。こどもたち、高齢者たちは、なかなか街中で積極的に遊ぶことができない現在、橋詰めでつくる遊び場の果たすべき重要な使命は、自分以外の人々の活動に触れて、想像力・創造力が膨らむ遊的好奇心を抱きたくなるような端緒を提供することであると考えます。運河沿いの空間を生活の中心的な場所へと変えていくことで、数十年後の街の高齢化にも対応しやすいです。

街中の橋詰めをこどもたちの居場所に

街づくりによって開放された橋詰めの空間には、小さな居場所となるパビリオンを設けていきます。パビリオンではリタイアした人や高齢者などが管理する、学童施設、児童図書館、ワークショップスペース、ギャラリー、カフェなどを設置し、コミュニティの拠点を作り出します。人々の集まる施設を分散化し、街中に点在させることで、遊び場のネットワーク化を図ります。

長期休み期間や休祭日を利用して、アーティスト、建築家、作家、詩人などを招き教育のためのワークショップを開催し、出来上がった作品は各橋詰めを巡回することで、こどもたちの活動が多くの人々に触れることとなります。芝浦地区の各行事と連携して小さなイベントもを行い、こどもたちをより楽しませる場所にしていきます。

また、こどもたちの親にとっては管理者からその日のこどもの様子を伺ったり、医療福祉関係機関や子育て経験者との連携によって、子育ての情報提供、指導を随時受けたりすることができる場所となります。



ワークショップの風景



橋詰めを巡回する展覧会

Shibaura's one end of the bridge Network Map



近年できた大規模高層集合住宅

芝浦地区(芝浦小学校通学区域)

0 100 200 300 400 500m

街遊び、街歩きの出発点、結節点となるべき橋詰め

運河沿いの遊歩道は芝浦における快適な遊び場、散歩道のネットワークを形成しうる道です。現状の遊歩道は途切れていたり、整備が進んでいなかったりするところもあります。しかし、将来的には遊歩道を繋いで人々が廻遊できるようにしていくことで、水辺の移ろいゆく四季の変化を肌で感じることができます。



敷地1：百代橋橋詰め



敷地2：八千代橋橋詰め



古い住宅、商店が建っている橋詰め



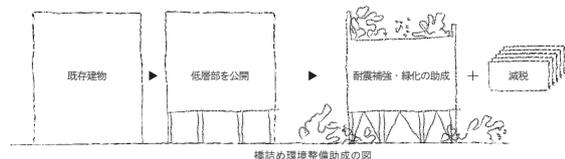
駐車場になっている橋詰め

橋詰め環境整備助成の提案

港区は人々の生活環境を向上させる整備を図るため、これからの街づくりにおける重要な拠点として橋詰めを重点環境整備地区として指定します。オフィスや倉庫など既存建物の低層部を公開する場合、公開率に合わせて耐震補強にかかる費用の一部を助成したり、建物にかかる税金を減額します。快適な市街地空間の実現を図り、区民が住みつけられる街の実現に資することを目的とするための制度の提案です。

飛び公開空地制度の提案

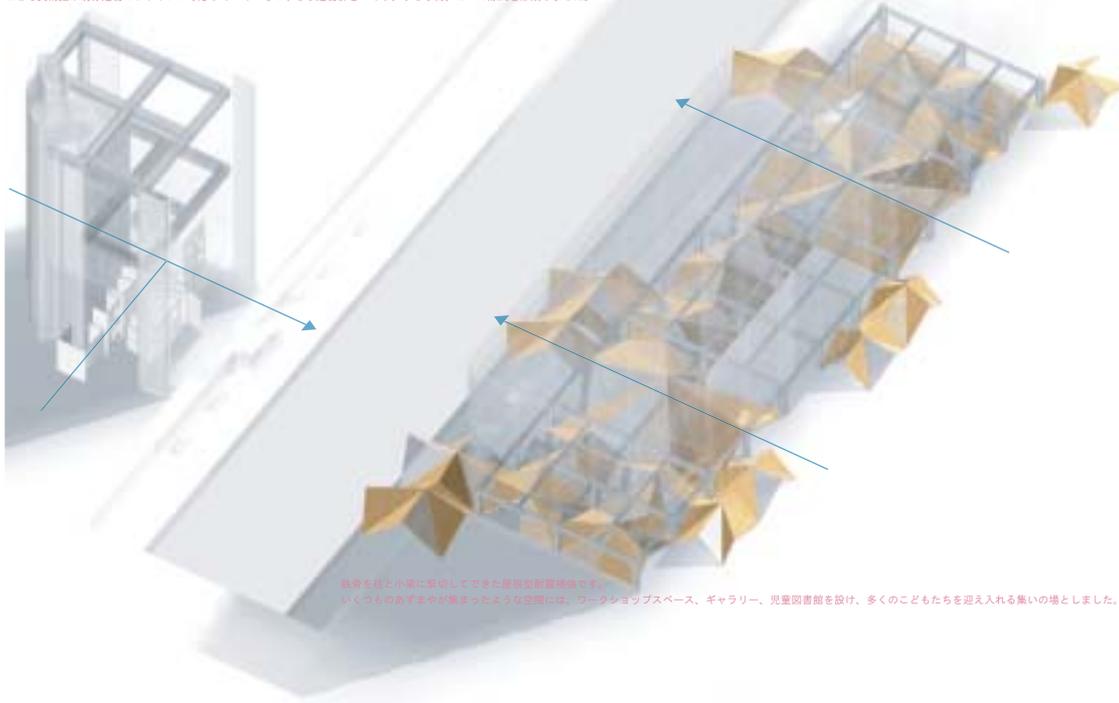
特定行政庁は運河を利用した街づくりを進める地域において、運河に面していない敷地で高層の建物を建築する場合、その公開空地を敷地から離れた運河沿いに設けていくことを認めます。水辺に快適な歩行空間の実現を図り、人々が水に親しむことのできる街の実現を目的とするための制度の提案です。



橋詰め環境整備助成の図

百代橋橋詰め再生 小さな基地が集まった小さな都市

既存構造に大断面の梁を新たに掛けて、スーパーラメン構造とする耐震補強をします。
こども美術館は既存建物のデザインに呼応していくつもの小さな建物群をつくり、小さな街、ビルの隙間を形成しました。



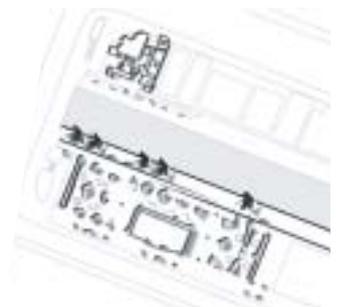
既存を柱と小梁に更新してきた歴史的耐震構造です。
いくつものあずまやが集まったような空間には、ワークショップスペース、ギャラリー、児童図書館を設け、多くの子どもたちを迎え入れる集いの場としました。



百代橋橋詰め西立面図 S=1:1500



百代橋橋詰め断面図 S=1:1500



百代橋橋詰め配置図兼平面図 S=1:2500

3 設計の概要・提案した作品ー1



こどもの世界と融合する建築
四角いXYZ軸による機能主義的な形でパビリオンを計画しても、こどもたちの想像力・創造力は膨らまないと感じています。従って、機能を越えて余分なものを持った形、一見無駄・無意味なものと思われる形に着目し、いろいろなカタチを用いてこどもたちの遊びを誘発するような場所をつくりたいと考えました。人々に刺激を与える空間をつくっていくことが構築のテーマです。



こども美術館内観図

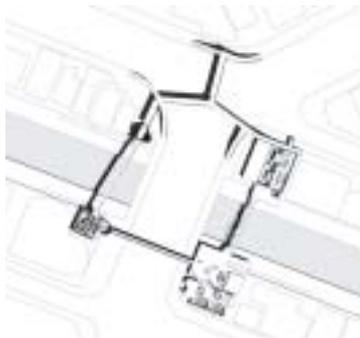


ワークショップスペース内観図

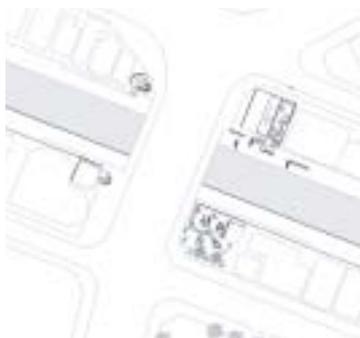
八千代橋橋詰め再生 歩道橋と連続した空中プロムナード



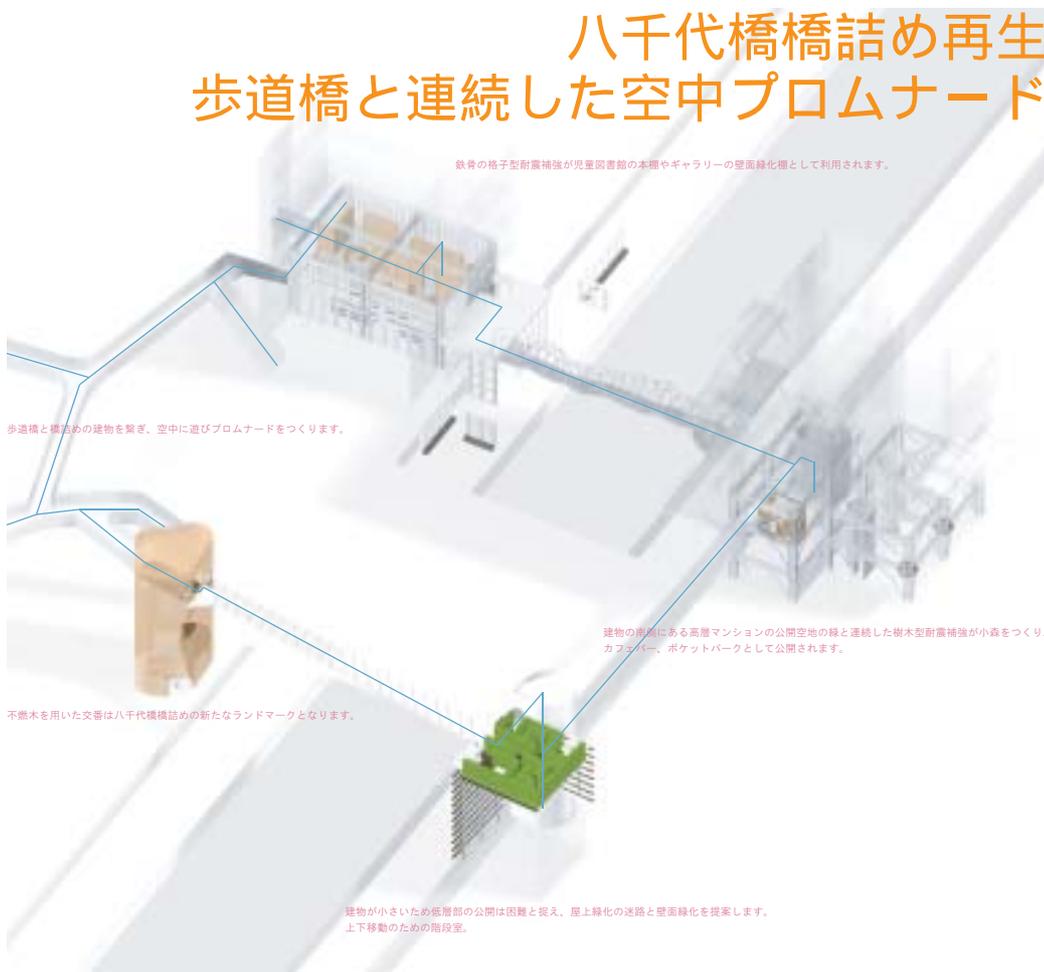
八千代橋橋詰め断面図 S=1:1500



八千代橋橋詰め2・3階平面図 S=1:2500



八千代橋橋詰め配置図兼1階平面図 S=1:2500



ルーズな建物づくり

私は常々、特定の用途や使われ方に即して無駄なく合理的につくり込まれた建物より、本来の役割を果たすべき機能と遊びの機能を併せもち、建物そのもののあり方をルーズな状態にしていくような建物の方が、子どもたち、高齢者たちにとっての都市環境は躍動的なものになると考えています。私が計画した街づくりにおいて重要なものは、儀式的でどこか禁止項目のあるような広場のイメージではなく、ルーズで様々なことを許すような空き地のイメージです。

子どもたちを見守る情景をデザインする

ここでつくりたいものは、子どもたち、高齢者たちを中心に様々な人々が日々集い、何事もなくとも思い思いにときを過ごせる「都市の空き地」です。ここでは特に、建築を通しておとなたち、高齢者たちが橋詰め空間で楽しむ子どもたちをやさしく見守る情景をつくりたいと考えました。



設計の概要・提案した作品ー2



文番内観図



児童図書館内観図



ポケットパーク・カフェバー内観図